

令和5年度 児童アンケート 調査項目

- ① 私は、学校が楽しい。
- ② 私は、学校の決まりを守っている。
- ③ 私には、困ったことがあったら相談できる友だちがいる。
- ④ 私には、困ったことがあったら相談できる先生がいる。
- ⑤ 私は、係や当番の仕事をやっている。
- ⑥ 私は、無言清掃をやっている。
- ⑦ 私は、下駄箱のくつをそろえている。
- ⑧ 私は、家の人に学校のようすを話している。
- ⑨ 私は、学校の授業が分かる。
- ⑩ 私は、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。
- ⑪ 私は、授業中に自分の考えを伝えている。
- ⑫ 私は、家に帰ってから勉強をしている。
- ⑬ 私は、本を読んでいる。
- ⑭ 私は、自分からあいさつしている。
- ⑮ 私は、早寝早起きをしている。
- ⑯ 私は、朝ご飯を食べて登校している。
- ⑰ 私は、自分の携帯電話・スマートフォンを持っている。
- ⑱ 私の家では携帯電話・スマートフォンを使うときのルールがある。

令和5年度 児童アンケート〔後期〕考察

櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

回答数は187名で、在籍児童数202名に対して92.6%の回答率である。

上記の評価基準からすると、【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、前期と同じく16項目中15項目である。さらに、そのうちの12項目が90%以上の肯定的評価であり、こちらは前期を1項目上回っている。これらことから、全体的には前期の良好な結果が継続しているといえる。

逆に、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が20%を超えている項目は前期と同じく1項目である。しかし、前期から否定的回答が増加した項目が2項目あり、来年度に向けた課題としたい。

〔3〕結果の考察

【学校生活】(項目①～④)に関わって

すべての項目で90%以上の肯定的評価であったものの、「③相談できる友だち」の項目で【A】【B】評価が前期を下回る結果となった。学校で友だちとの関わりを取り戻し始めているが故に、その難しさも実感していることがうかがえる。「あやめっ子タイム」などでていねいにソーシャルスキルを学習しながら、児童相互の関わる力の醸成に努めたい。また、全ての児童が安心した学校生活を送るための目配りや気配りを、これまで以上に行っていききたい。

【確かな学力】(項目⑨～⑫)に関わって

5項目のうち、「⑩授業中に考えを伝える」の項目を除いた4項目で、【A】【B】評価が『満足できる状態』で、さらに前期と同率か上回る結果となった。

前期からの課題であった「⑩授業中に考えを伝える」の項目で【C】【D】評価が増加していることは見逃せない。このことについては、前期同様に“恥ずかしい”“発表の仕方が分からない”等いくつかの理由が考えられるが、校内研究のテーマとして取り組んだ『学び合い』が実践として定着してきたものの、児童が自らの表現力を実感できるところまでには至っていないと考えられる。「⑩自分の考えをもって話を聞く」の項目が伸びを見せているだけに、来年度は『学び合い』の質的な向上を目指し、自分の考えを他者と伝え合うことが学びの深まりとして実感できるよう、授業改善に努めたい。

「⑫家に帰って勉強」の結果は、95.2%と肯定的評価が前期をさらに上回った。前期から引き続いて家庭学習の定着が見られる。日々の宿題や自主学習への働きかけとともに家庭の協力体制の成果であり、今後も家庭との連携を深め、さらなる学力の向上につなげたい。

【豊かな心】(項目⑤⑥⑦⑧⑩⑪)に関わって

6項目のすべてで【A】【B】評価が80%を超える、『満足できる状態』となった。

橿形地区小中学校が小中一貫教育として取り組んでいる「⑥無言清掃」「⑦靴そろえ」の項目が前期の課題であったが、ともに肯定的回答が増えた。これは、橿形地区の小中学校で無言清掃と靴そろえのポスターを交換して掲示したり、児童会の活動が本格的に行われたりしたことの成果といえる。

「⑧家で学校の様子を話す」では、前期よりも【A】【B】評価が向上したものの、依然として17.1%が【C】【D】評価となっている。各種便りを配付するときなどに、それらを材料に児童が保護者に伝えるよう促すなどの工夫をしていきたい。

「⑩本を読む」の項目でも前期を上回った。読書のおもしろさや重要性を伝えるために職員によるお勧めの本の紹介(読み聞かせ)や児童が好きな本を投票するなど、地道に読書教育を充実させてきた成果であり、読書タイムも含めてさらなる定着を目指したい。

「⑪あいさつ」の項目は、前期と同じく肯定的評価が92.5%と高い結果が出た。児童会活動の「あいさつ運動」や「小中連携あいさつ運動」等の取り組みの成果であるが、日常的に自分からあいさつができる児童を目指してさらに指導を重ねたい。

【健やかな体】(項目⑫⑬)に関わって

「⑫早寝早起き」の肯定的評価は84.5%で、前期よりも向上しているものの、15.5%の否定的評価の児童は、十分な睡眠がとれていないと考えられ不安が残る。このアンケートからではわからないが、慢性的に睡眠不足になっている児童がいないか、注意深くかかわっていきたい。

「⑬朝ご飯」の項目では、前期同様に肯定的回答が96.8%であるが、【A】評価の「いつも食べている」の回答がおよそ5.9%下がり、【D】評価「食べていない」と回答した児童が出てきている。

育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも、「早寝・早起き・朝ごはん」の家庭への啓発を継続したい。

【その他】

[項目⑭⑮に関わって]

前期と比べて携帯電話・スマートフォンの所持率は微増だが、ルールを設けている家庭が8.8%減少している。昨年度のアンケートにおいても前期よりも後期に減少する傾向が見られた。使っていきにしたがって、ルールが曖昧になっていることが考えられるため、児童と保護者の双方に定期的に啓発をしていく必要がある。

便利な情報端末でも、使い方を間違えると、自らの成長を損なったり大きなトラブルに巻き込まれたりしてしまう。携帯電話・スマートフォンを与えている保護者が、児童とルールを決めて守らせていく必要がある。来年度も、学習用タブレット端末の効果的な使い方と併せ、学校と家庭が連携して情報モラルの徹底を図っていきたい。

令和5年度 職員による学校評価 調査項目

- ① あなたは、学校教育目標に基づき、学校や児童・生徒の実態に即した教育実践を行っていますか。
- ② あなたは、P（計画）D（実行）C（確認）A（改善）のサイクルで、教育活動の向上に努めていますか。
- ③ あなたは、教職員間において報告・連絡・相談に努め、協力的な取り組みをしていますか。
- ④ あなたは、危機管理（防犯・防災・事故等）マニュアルを理解し、指導していますか。
- ⑤ あなたは、校務分掌で任された業務に積極的に取り組んでいますか。
- ⑥ あなたは、校内研に主体的に関わっていますか。
- ⑦ あなたは、諸会議に積極的に参加していますか。
- ⑧ あなたは、教材・教具（ICT 機器を含む）を効果的に活用する授業を行っていますか。
- ⑨ あなたは、児童・生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導していますか。
- ⑩ あなたは、授業の始めに児童・生徒に授業のめあてを示していますか。
- ⑪ あなたは、授業や単元の終わりに、児童・生徒がめあてを達成しているかを評価していますか。
- ⑫ あなたは、児童・生徒理解のために、日頃から様々な方法でコミュニケーションを図っていますか。
- ⑬ あなたは、諸問題（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応に努めていますか。
- ⑭ あなたは、児童・生徒の規範意識や道徳性を育む指導に取り組んでいますか。
- ⑮ あなたは、児童・生徒が進んであいさつするよう指導していますか。
- ⑯ あなたは、特別支援教育の理念を理解し、個に応じた関りをしていますか。
- ⑰ あなたは、学校の教育活動について、おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報していますか。
- ⑱ あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っていますか。
- ⑲ あなたは、対話を意識した学び合いを授業に取り入れていますか。
- ⑳ あなたは、深い学びになるよう、課題や発問の工夫をしていますか。
- ㉑ あなたは、Simpler プログラムの目的意識を理解して、指導に取り組んでいますか。
- ㉒ あなたは働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいますか。

令和5年度 職員による学校評価〔後期〕考察

櫛形北小学校

本校では、前期の学校評価を踏まえて次の点において重点的に取り組み、学校改善を進めてきた。

- ・ 授業中に自分の考えを伝えることができるよう、「あやめっ子タイム」で児童相互のよりよい関係づくりに努めるとともに、校内研究のテーマである『学び合い』やICT機器を効果的に用いた授業づくりを行う。
- ・ 毎時間の授業において、その時間の学習内容が定着するよう、めあての提示とふりかえりを確実に行う。
- ・ 地域の教育力や人材を生かすために、教育委員会の協力を仰ぎながら、教育活動に携わっていただけると人材の発掘に努める。
- ・ 全職員がこれまで以上に児童理解に努める。一人一人の悩みや不安に寄り添うとともに、個性を認めてよさをさらに伸ばす指導を心がける。

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、22項目のすべてで【A】【B】の合計が80%を超える結果となった。また【A】【B】の合計が100%であった項目は14項目あり、前期の10項目を上回った。

このことから、全体的として良好な状況が継続しており、学校として改善に取り組むことができたと言える。

〔3〕結果の考察

【学校経営・学校運営への参画】(項目①～⑦)に関わって

項目①から⑦のうち、【A】【B】の合計が100%であった項目は、前期と同じく5項目あった。この結果は、職員全員が、目指す学校教育目標の意味を一つ一つ確実に理解し、目標達成の実現に向かう取り組みが定着したといえる。また、職員一人一人が各自の分掌や役割を十分に理解し業務に専念できているのは、2学期の諸行事を経て、校長を中心とした組織が十分に確立したことによるものである。しかし、「②PDCAサイクルによる教育活動の向上」と「⑥校内研」の2項目で【C】評価があることは見逃せない。PDCAサイクルについては改善点を考えて引き継げるようにするとともに、校内研究でさらに教師も学び合える学校を目指したい。

【学習指導】(項目⑧～⑪)に関わって

項目⑧から⑪すべてにおいて、前期の評価を上回った。特に「⑩めあての評価」については肯定的評価が78.6%から向上して「⑩めあての提示」とともに100%となったことは、前期の学校評価を踏まえて「めあて」について重点的に取り組んだ成果と言える。

「⑧ICT機器の活用」については、【A】評価が増えて【D】評価がなくなったことから考えると、職員のICT活用はさらに定着していると考えられる。ただ、依然【C】評価があることを考えると、今後も自主的なICT勉強会などを計画し、さらに効果的な活用を目指したい。

【生徒指導・生活指導】（項目⑫～⑯）に関わって

「生徒指導」「生活指導」に関する5つの項目は全て【A】【B】評価100%という結果であり、さらに、【A】評価が増えている。これは、これまで以上に児童理解に努め、日々職員が一人一人に寄り添い、共感的・受容的な対応を心がけている成果である。ただ、「⑬諸問題の早期発見・早期対応」と「⑯個に応じた関わり」の2項目は本校の課題でもあるので、さらに専門性を高められるよう全職員で努めていきたい。とりわけ様々な特性をもつ児童への対応は、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。早急に結果を求めず、長期的な視点で支援を継続するとともに、専門性をさらに高めるための手段として、ケース会議や研修資料の共有などの充実させていきたい。

【保護者・地域との連携】（項目⑰⑱）に関わって

「⑰情報の発信」は【A】【B】の肯定的評価が100%で前期と同様であるが、【A】評価が増加している。この部分では、保護者アンケートにおいても肯定的回答が昨年度を上回っており、各学年便りの充実とともにホームページがタイムリーに更新されることによるところが大きいと考えられる。

また、「⑱地域人材・施設の活用」においては、前期に比べて【A】評価が減少したものの、【B】評価が大幅に上回り、肯定的評価となった。これは、新しく人材や施設は開拓できなかったものの、修学旅行や社会科見学などで市文化財課などから効果的な支援を受けることができたことによるものと考えられる。来年度は、今年度有効に活用できたものを継続し、保護者や地域との連携をさらに工夫していく必要がある。

【小中一貫教育】（項目⑲～⑳）に関わって

項目⑲と⑳は新学習指導要領でも掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現である。2つの項目とも【A】【B】評価が前期を上回る結果となった。特に、「⑲『学び合い』」の項目で肯定的評価が84.6%となったことは、今年度の校内研究会のテーマであることを考えると、「⑥校内研」の項目で肯定的評価が向上していることと併せて大きな成果と言える。今後も実践を重ねて、対話や深い学びにつなげていきたい。

「Slimpleプログラム」も【A】【B】評価が85.7%となり、前期を上回った。「Slimpleプログラム」は、学び合いの基礎基本となる大切な“力”を育むものであり、小中一貫教育の大きな柱でもある。今後も職員が学び合いながら継続して取り組み、互いに認め合うことができる児童の集団を育て、多くの学習で活用できるようにしたい。

最後の項目「⑳働き方改革」は【A】【B】評価88.9%、【C】評価11.1%であり、前期をやや下回る結果となった。2学期には、日常の学習指導に加え、行事に向けての業務をこなさなければならなかったことが原因と考えられる。「働き方改革」「多忙化解消」は簡単には改善できないが、あらゆる教育活動において効率化できないか考えるとともに、確実に無駄のない業務の引継ぎについて再確認したい。

令和5年度 保護者アンケート 調査項目

- ① お子さんにとって、学校は楽しいところですか。
- ② お子さんは、授業の内容が分かっていますか。
- ③ お子さんは、朝ごはんを食べて登校していますか。
- ④ お子さんは、家庭学習（宿題や塾・家庭教師との勉強を含む）をしていますか。
- ⑤ お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか。
- ⑥ 学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。
- ⑦ 授業参観や運動会・音楽会（学園祭や合唱祭）などの学校行事は、お子さんの様子を知る機会となっていますか。
- ⑧ 学校（学年・学級）だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか。
- ⑨ 学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていますか。
- ⑩ 学校には教育活動に適した施設・設備が整っていますか。
- ⑪ ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。
- ⑫ お子さんは自分の携帯電話・スマートフォンを持っていますか。（「持っている」と答えた御家庭は⑬へ）
- ⑬ 携帯電話・スマートフォンを持たせている場合、お子さんと使い方についてルールを決めていますか。
- ⑭ 2学期から、校長名（またはPTA会長名）によって発出する文書やGoogleフォームで回答をお願いする文書は安心メールへ添付し、学年のお便り等は紙で配付してきました（家庭配付通知のメール添付方式）。この方法の目的等は、9月20日に発出した安心メールでご確認ください。このことについて、お考えに最も近い選択肢を選んでください。
- ⑮ ⑭で選んだ選択肢について理由がありましたらお答えください。
- ⑯ なんでもお気づきな点がありましたらお書きください。

令和5年度学校評価 保護者アンケート考察

櫛形北小学校

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、11項目中9項目で【A】【B】の合計が80%を超えている。さらに、その内6項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できる。しかし【C】【D】の合計が20%を超えている否定的評価の項目は一つもないのだが、計9項目にわたり【E】「わからない」という回答があり、気になる部分となっている。特に「⑤相談できる友だち」「⑨保護者・地域住民からの声」「⑩教育活動に適した施設・設備」は、いずれも前年度に比べて【E】回答のやや割合が増している。

〔3〕結果の考察

【学校が楽しいか】(項目①)に関わって

【A】【B】評価が94%であり、多くの保護者が子どもにとって学校は楽しいところだと評価している。しかし【C】【D】の否定的評価や【E】「わからない」という評価をする保護者もいる。家庭での子どもとの関わりからの評価と思われるが、全ての子どもに「学校は楽しい」と言ってもらえるよう日々努めたい。

【子ども理解(学習・友達)】(項目②④⑤)に関わって

「②授業の内容が分かるか」については【A】【B】評価が88%と前年度より3ポイント下回り、10%の否定的評価と併せて考えると、「理解していない」「ついていけない」児童の実態を把握し、措置を講じなくてはならない。「指導力・授業力の向上」は教員の責務であり、全ての児童にとって「分かる授業」が展開できるよう努めたい。

「④お子さんは、家庭学習をしていますか。」については【A】【B】評価が90%の結果となり、家庭学習の充実が学力の向上につながるという意識が、各家庭に浸透していることが分かる。これからも学校と家庭が協力して児童の学力向上のために取り組んでいきたい。

「⑤相談できる友だち」であるが、【E】回答(11%)の結果が表しているように、家庭ではなかなか把握しにくいと考えられる。しかし、小中一貫教育で取り組んでいる「Simple プログラム(あやめっこタイム)」にこつこつと取り組みながら、児童相互の結びつきを強めていくことで、困ったときに助け合える関係づくりにつなげていきたい。

【家庭・地域との連携】(項目⑥⑨⑩)に関わって

「⑥お子さんのことで相談できる先生」は【A】【B】評価が79%となり、前年度を下回った。しかし、【C】【D】評価の割合は昨年度と変わらず、【E回答】が増加していることが気付きである。これからも、児童や保護者とのコミュニケーションを大切にして、教職員への理解を深めてもらうとともに、信頼される教師集団を目指したい。

「⑨保護者・地域住民からの声」の【A】【B】評価は81%であり、前回の結果を上回った。教育活動を進めるにおいて、家庭や地域との連携は必要不可欠である。充実した教育活動や児童が安心して学校生活を送れるようにするためにも、家庭や地域から考えを寄せてもらう機会を増やしていきたい。また、学校にどのような意見が寄せられ、どのように答えていくのかといったことを発信していくことで、【E】回答の減少につなげていきたい。

「⑩教育活動に適した施設・設備」の項目についても、「⑨保護者・地域住民からの声」と同様に【E】回答が10%を上回っているため、施設・設備が有効に使われている場面や改善された部分などを積極的に情報発信していきたい。

【生活習慣】(項目③⑪)に関わって

「③朝ごはん」の項目では【A】【B】評価99%と、とても高い肯定的評価が得られている。今後も継続した食指導、規則正しい生活習慣づくりの指導を心がけていきたい。

「⑪家族で互いにあいさつ」の項目も【A】【B】評価98%と高評価を得ている。学校や地域のあいさつ運動だけでなく、家庭と連携した実践になっている。あいさつは小中一貫教育としても取り組んでいる項目なので、中学校とも協力しながらさらに充実させていきたい。

【情報発信】(項目⑦⑧)に関わって

「⑦学校行事は、児童の様子を知る機会となっているか」の【A】【B】評価は96%と前年度を上回る高い結果であった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによる、運動会での制限人数をなくしたことや、ドレミファ発表会が対面で行われたことなどによるところが大きいと思われる。今後も、児童の様子や学校の教育活動をていねいに伝える場として、学校行事を計画していきたい。

「⑧各種通信やホームページから教育活動が伝わるか」についても【A】【B】評価は94%と満足できる結果であった。実際に足を運んでもらうことと合わせ、様々な媒体を通じて情報を発信することが学校の理解につながると考えられる。信頼される学校づくりのために、これからも児童の様子や学校の様子を発信するように努めたい。

【情報端末の所持と使用】(項目⑫⑬)に関わって

スマートフォンなどの所持率は、昨年度をやや下回って26%という結果であった。また、情報端末使用ルールについては、81%があると回答している。トラブルに巻き込まれないためにも、正しく情報端末の使うことができるよう、学校でもタブレット端末の使い方について継続して家庭と連携していきたい。